

## 雜錄

### ◎歐米炭界並製鐵界便り（承前）

抗夫一週平均作業日數は五・六日を算し、昨年最後三ヶ月間の日數に比すれば石炭の分は〇・七三パーセント、褐炭の分は〇・一八パーセントの作業日數を増加し居れり。同時に一交代一人當り產炭能力は石炭の分は〇・〇一七噸乃至〇・五七三噸、褐炭の分は〇・二乃至一・四一噸を増加せり、以之觀之チエコ、スロワーキヤの炭業狀態は益々隆盛に向ひつゝあることを明かなり。

本年最初三ヶ月間に於ては獨逸より三一、五一四噸の石炭と三〇、九七八噸の褐炭とを輸入せり。チエコ、スロワーキヤよりは二二八、八四二噸の石炭と一一一、四一五噸の骸炭と一、〇〇一、七四五噸の褐炭と一八、六三九噸の褐炭製煉炭とを輸出せるが大部分は獨逸及換太利に輸出したり。

五、換太利の石炭及褐炭產額 本年最初三ヶ月間に於ける換太利の石炭產額は六五、三二一〇佛噸褐炭は一八一、九二〇噸に達したり。昨年一ヶ月の產額は石炭一二三四、四〇〇噸褐炭二、三九三三・五四噸を示したり。以上(The Iron and Coal Trades Review 九月二日所載)

六、ベスレーヘム製鋼會社貨銀引下（アイアンツレード、レヴ

ユ一九月十五日所載）

フイラデルフィア九月十三日發ベスレーヘム製鋼會社に於ては又復同會社一切の工場を通じ九月十六日より普通勞働者の

賃銀を八パーセント引下ぐる旨公表したり。之れが爲め從來の賃銀一時間廿七仙は二十五仙となれるが東部工場の大半は既に普通勞働者の賃銀廿五仙に引下げ居れり。ベスレーヘム製鋼會社は先きに一五パーセントを減少し即ち一時間の賃銀を二十七仙に引下げて七月十六日より施行し來れり。  
備考 合衆國の賃銀引下に就て觀るに獨立會社は常にスチール、コー・ボレーシヨンによるよりも先きに貨銀を引下げ居れり。スチール、コー・ボレーシヨンに於ては七月十六日より一時間の賃銀を三十七仙に、八月廿九日より三十仙に引下たり、苟合衆國鐵鋼業の平均賃銀は第七項に示せる通りにして貨銀は今後更に引下げるべし。

### 七、合衆國鐵鋼業の平均賃銀

工場數	職工數	半月の賃銀			一人當り月平均賃銀	一ヶ月以前の月平均賃銀
		一九二一年八月	一九二一年九月	一九二一年十月		
六	一一八	四〇一六六	四〇一六六	四〇一六六	八四八	一五三
六	一一七	三〇一六六	三〇一六六	三〇一六六	六六六	一四〇
六	一一七	二一〇六六	二一〇六六	二一〇六六	六六六	一三一
五	一一一	一九〇六六	一九〇六六	一九〇六六	六六六	一二二
四	一一一	一七〇六六	一七〇六六	一七〇六六	六六六	一一三
三	一一一	一五〇六六	一五〇六六	一五〇六六	六六六	一〇四
二	一一六	一三〇六六	一三〇六六	一三〇六六	六六六	九五
一	一一一	一〇〇六六	一〇〇六六	一〇〇六六	六六六	八六
一	一一一	八〇六六	八〇六六	八〇六六	六六六	七七
一	一一一	六〇六六	六〇六六	六〇六六	六六六	六八
一	一一一	四〇六六	四〇六六	四〇六六	六六六	五九
一	一一一	二〇六六	二〇六六	二〇六六	六六六	五〇
一	一一一	一〇六六	一〇六六	一〇六六	六六六	四一
一	一一一	九〇六六	九〇六六	九〇六六	六六六	三二
一	一一一	八〇六六	八〇六六	八〇六六	六六六	二三
一	一一一	七〇六六	七〇六六	七〇六六	六六六	一四
一	一一一	六〇六六	六〇六六	六〇六六	六六六	一三
一	一一一	五〇六六	五〇六六	五〇六六	六六六	一二
一	一一一	四〇六六	四〇六六	四〇六六	六六六	一一
一	一一一	三〇六六	三〇六六	三〇六六	六六六	九
一	一一一	二〇六六	二〇六六	二〇六六	六六六	八
一	一一一	一〇六六	一〇六六	一〇六六	六六六	七
一	一一一	九〇六六	九〇六六	九〇六六	六六六	六
一	一一一	八〇六六	八〇六六	八〇六六	六六六	五
一	一一一	七〇六六	七〇六六	七〇六六	六六六	四
一	一一一	六〇六六	六〇六六	六〇六六	六六六	三
一	一一一	五〇六六	五〇六六	五〇六六	六六六	二
一	一一一	四〇六六	四〇六六	四〇六六	六六六	一

右表を以て見れば一九二〇年十月の賃銀最高を錄し居れるが右は平和時に於ける最高レコードと思惟す。一九二一年七月の賃銀は一九二〇年十一月の賃銀に比し半額を減じ居れり七月の作業日數二十五日として一日の賃銀は三弗〇八仙に減

少し八月は稍々増加し三弗一仙を算せり。  
 然るに物價の減少率は貨銀の如く大ならず、一九一四年の物價を一〇〇として一九二〇年九月の物價指數一九九に對し一九二一年八月の指數は僅か一六二に降下せるに過ぎず、主要工業中貨銀の降下最も顯著なるものを鐵鋼業とす指數を以て之を例證すれば次の如し。（一九一九年の平均貨銀を一〇〇とす）

年	月	鐵鋼	自動車	綿	羊毛	皮革	絹	靴	製紙
一九二〇年九月		一八	二八	三三	二六	一〇	三	一〇	一三
一九二一年七月	夏	一二	一〇〇	一一	九五	一六	一五	一〇	

右の如くなるにも拘らず鐵鋼業調查委員會に於ては斯業の不振を挽回するには更に貨銀の値下を必要とし出來得べくんば歐洲の貨銀率線上まで引下げざるべからずとなし尙又失職者救濟策としても來るべき新貨銀率に勞働者を甘んぜしめ而して彼等の產額制限を除去することを必要となせり。

委員會に於ては又約百萬人の失業者を就業せしむる手段として急遽政府をして五億弗を鐵道事業に支出せしめんことを議決せり。又キャンプペル氏は農產物の運賃率を引下げて農夫の購買力を回復することも不景氣挽回策の一たりと論じ居れり（アイアン、ツレード・レヴュー九月廿九日所載、Seeks to Start Industry moving”）

## ◎世界造船年報（自一九二〇年七月至一九二一年六月）

（大正十一年十一月十一日附在リバ  
アブル帝國領事坂根準三報告）

一九二〇年七月より一九二一年六月に至る一年間（以下本年度と稱す）世界に於ける造船形勢に關するロイド年報は最

近發表せられたるが右に據れば本年度世界造船は前年度に比し百萬餘噸を減じ現下斯業界は空前の不況に沈衰しつゝあるも一方本年度建造石油使用汽船は初て噸數上石炭專用汽船を超過したるのみらず大戰以降一九二一年七月に至る間に於て約千百五十萬噸即ち略々十倍に垂んとする跳躍的膨脹を遂げ所謂石油時代海上に黎明しつゝあるを想はしむるものあり左に該年報要項を摘報すべし。

本年度建造船 本年度世界に於て建造せられたる船舶は九百十一隻此噸數（グロッス噸以下同じ）左の如し。

帆	汽	船	計
三、二二九、一八八	一五、九四三		
三、二四五、一三一	一五、九四三		
		一、〇〇八、三九二	

にして今之を前年度に比較するに

帆	汽	船	計
九五七、六九四	五〇、六九八		
一、〇〇八、三九二			
		同	二三、七〇

比率 二三、八七%

同 七六、〇七

同 二三、七〇

の減退を示したるも之を一九一四一一五年以降一九一九一二〇年度に至る六年平均に對照するに汽船に於て九〇三、九〇一噸即ち三八・八七%の增加を示すも帆船に於て六、四〇七噸即ち二八、六六%の減退を示し結局帆汽全體に於て八九七・四九四噸即ち三八・二二%の増加を示したり。

一九一四一一五年度以降各年度に於ける帆汽建造噸數及帆汽合計噸數を對照表示すれば左の左し。（單位噸）

年	度	汽	船	帆	船	帆汽合計
一九一四一、一五		一、二八九、八二七		五、七九六		一、二九五、六二三
一九一五一、一六		七八九、六八八		五二一		七九〇、二〇九
一九一六一、一七		一、三七一、九一五		四、二一〇		一、三七六、一二五

一九一七一八 二、五五二、六〇七 一六、五一七 二、五六九、一二四  
 一九一八一一九 三、七六〇、八〇六 四〇、四一五 三、八〇一、二二一  
 一九一九一一二〇 四、一八六、八八二 六六、六四一 四、二五三、五二三  
 一九二〇一一二一 三、二三九、一八八 一五、九四三 三、二四五、一三一

主要造船國別 本年度建造船九百十一隻、三百二十四萬五

千噸に就き其の主要造船國別を見るに左の如し。

	隻數	噸數
米國	二四〇	一、二二九、二七〇
日本	四三九	一、一六三、五九〇
和蘭	七〇	三五六、一八〇
英國屬領	四五	一六二、二八九
其他諸國	七〇	一五九、〇〇〇
合計	九二一	一八四、八〇二

右の總噸數に對し主要各國建造噸數は米國三七・五%、英本國三五・八%、日本一〇・九%、和蘭五%、英國屬領四・八%、其他諸國五・六%の比率を示す。

船主の國籍別 次に船主の國籍別を見るに左の如し。

	隻數	噸數
米國	二三三	一、一六〇、三七〇
日本	三〇九	六七九、六九八
英國屬領	六二	三一二、八九〇
和蘭	四七	一六二、二八九
	三七	一三七、六二三

本年度造船界の特徴 本年度建造船が前年度に比し二三・

七%の減退を示せること前述の如くなるも而も本年度造船中一萬噸以上の巨船と Ishwood System of longitudinal framing 型船との數に於て前年度に優越せり。

即ち一萬噸以上の巨船は前年度の一隻に對し本年度は十隻の優を示し又後者型船に關しては前年の百二十一隻七十四萬

四百三十噸に對し百二十二隻七十七萬八千六百六十六噸を算せり。

尙右本年度本型船總數中には石油輸送船七十九隻五十二萬九千二百三十八噸を包含せるが右は前年度の四十三隻二十五萬三千九百七十五噸に比し噸數上二倍を増加したり。石油輸送船 本年度建造に係る石油輸送船は其各船型一切を網羅すれば百十二隻六十一萬四千四百六十四噸に達し本年度造船總噸數の約一九%を占めたり、而して石油輸送船に対する需要は近年頗る旺んとなれる爲、一九二一年七月現在に於ては戰爭の直前に比し略三倍に膨大したり。

即ち左表の如し。

	一、四七八、九八八	二、九二九、一二三	三、三五四、三四四	四、四一八、六八八
一九一四年七月				
一九一九年七月				
一九二〇年七月				
一九二一年七月				

石油燃燒裝置船 本年度建造船中石油燃燒裝置船は三百五十三隻百八十六萬七千百十五噸にして該噸數は本年度造船總噸數の五七・五三%を占めたるが石油を燃料として運轉せらるゝ汽船が單に石炭のみを燃料として運轉せらるゝ汽船より以上多數の建造を見たる事例はロイド協會史上未だ前例なく本年度を以て嚆矢とす。

而して既往三年石油燃燒船の建造急進の勢ありたる結果戦争の直前に於て百三十一萬噸に過ぎざりし本船は一九二一年七月に到りては千二百七十九萬六千餘噸に達し略十倍に垂んとする急進的大膨脹を遂げたり。

尙前記本年度米國建造船二百四十隻百二十一萬噸中僅に三

隻八千五百八十一噸を除く外他は悉く石油燃燒裝置船なりしと謂ふに於て特に其著しきを見る。

一九一四年七月及既往三月同月に於けるロイド登録濟石油燃燒裝置船の噸數を表示すれば即ち左の如し。

一九一四年七月

一、三一〇、二〇九  
噸

一九一九年七月

五、三三六、六七八  
九、三五九、三三四

一九二〇年七月

一二、七九六、六三五

石油發動機船 石油燃燒船の發達右の如く急速なるが石油を最も經濟的に消費する石油發動機船即ち内燃燒機關裝置船の發達亦頗る顯著なるものあり。

一九一四年七月ロイド登録濟本船は二百九十七隻二十三萬四千噸に過ぎざりしに一九二一年七月には千四百七十三隻百二十四萬八千八百噸に達し即ち隻數及噸數に於て何れも五倍内外に膨脹したり。

一九一四年七月及既往三年同月に於ける本船の隻數及噸數を表示すれば左の如し。

二九七  
隻

二三四、二八七  
噸

九一二

七五二、六〇六  
噸

一、一七八

九五五、八一〇  
噸

一、四七三

一、二四八、八〇〇  
噸

猶一九二一年七月現在發動機船中千噸以上のもの二百八十隻に上り又其の内

一二五  
隻

本年度中ロイド協會を通過せる新規造船計畫は僅に四百三十三口百六十万千六百五十噸に過ぎざりしと謂ふ。

五千噸乃至二千噸船  
二千噸乃至五千噸船  
五千噸以上船

九七  
五四  
二一

を算したり。

次に千噸以下の小船の大半は其の動力を全然發動機に倚頼せらるも又千噸以上のもの二百八十七隻中九十五隻は帆力併用船なりと謂ふ。

石油時代の到來

石油燃燒裝置船及石油發動機船の發達右の如く急激なる結果石油が海上に於て石炭の領域を蠶食すること頗る廣汎なるものあるに顧み當國に於ては海上の石油時代將に到來せむとすと説くもの鮮からず、而して是等の諸説を綜合するに燃料として石油と石炭との關係的専門的穿鑿は暫く措き大體に於て石油使用船は石炭専門船に比し勞働、石炭庫及乗組員室に充てらるべき場所並に港津碇泊時間に於て遙に經濟的にして即ち船舶運轉費用を頗る節約し得るの利益あり殊に旅客運送巨船の場合に最も有利なりと謂ふに在り。

未完成船 一九二一年六月末世界に於て建造中としてロイドに登録せられたるもの四百二十三萬五千五百十一噸に達したるが此内七十萬四千噸は工事中止せられ居り結局三百五十三萬千噸が現實に建造中に在りたりと謂ふ。

新規造船註文の激減 本年度に於ける新規造船註文の減少頗る夥しきものありたるが右は最近數ヶ月に於て急轉直下的に激落を繼續し之が結果として現今造船業は世界的に不振を極め而して斯かる不振はロイド協會史上未曾有の現象と稱せられ當國に於ては斯業の前途に關し悲觀説旺に流布せられづゝあり。

船腹の過剩、運賃傭船料及船價の慘落、運轉費用の激増を胚

胎し來れるものなることは今更絮説の要なしと信ず。

●鐵板業現況 鐵板製造業は一時需要の減退と手持原料の値下げにより大打撃を受け、八幡製鐵所、川崎造船所、福山鐵板會社は何れも極度の操業短縮を行ひ幸うじて事業を繼續してゐたが、その後漸次需要の回復した上に原料シート、バーの相場が安定して來たから徐々に操業回復し、福山鐵板會社の如き最不況時に半減された職工が殆んど全部復舊し、目下月額約二千噸產出さるが製品の停滯することのなきため他の同業者も漸次操業を擴張する傾向ありと。

●富士製鋼増資 富士製鋼會社は一月二十五日海上ビルディング内に臨時總會を開き昨年十二月の總會に於て假決議となつて居た資本金増額の件即ち現在六百萬圓を七百八十萬圓に增加の件及び之に伴ふ定款改正案を附議可決せり。

●銑鐵在荷調 最近の調査によれば一月末現在内地に於ける銑鋼在荷高は總計二十一萬二千噸で之を前月に較ぶれば約三萬噸の減少であつて其地方別左の如し。(單位千噸)  
 △東京一八△横濱二△名古屋九△大阪二〇△神戸四二△門司一五△長崎一△大連二六△室蘭四五△兼二浦二△釜石八△合計二一二

●濠洲製鐵狀況 最近シドニー發電によれば濠洲政府は戰時中の經驗により戰後極力製鐵工業を保護獎勵したる結果事業の發達や見るべきものがあつたが、最近に歐洲より安價なる鐵類輸入の打撃を受けこれ等工場中クリスマス前後より閉鎖又は一部休業をなすものが續出し解雇職工四萬以上に及ぶべくアンチ・ランティング法は主として右工業救濟のため案出せられたものがこれに關聯し關稅局の組織完備するまでは實施の運びに至らざるべきを以てその間同地製鐵業は勞

銀の低下せざる限り非常の苦境に陥らんと觀察せらる、尙ほ濠洲に於ては獨逸品は未だ輸入禁止中なるも獨逸は他國を通じて鐵類を同地に輸入せるに非らずやとの評もある。

●歐洲產鐵減少 歐洲の鐵材生產國中英國は原料高及び工賃高のため昨年來生産が引合はず今日では鐵材の生產國と云ふよりも寧ろ大陸物の輸入國となつてをるから近來本邦へ輸入されるものは獨逸佛國または白耳義品に限られてをり、就中獨逸品が最も多く輸入せられるので内地市場は常に同國品によつて左右される状態であるが、昨冬來獨佛白の三國とも石炭の供給が不足せるため原料の輸送難及び燃料の缺乏等により生産が意の如くならず豫て好況時代に引受けた註文を繰延ばし目下既約品の製造に追はれてゐるから目先の燃料難と相俟つて期近積出品に對する新規註文に應ぜられぬ状態にある、斯くて大陸に於ける鐵材生産の激減せる結果内地輸入の買付著しく困難となり且つ相場も從來爲替關係及び運賃關係にて漸落歩調を辿つてゐたが昨今は本國在荷減少により期近積出のものに對し一噸に付五圓内外の高値を拂はねばならぬと。

●米獨鋼鐵鞘寄 従來米國銑鐵價格と獨逸の夫れとは異常なる値開きあり、即ち米品は高價で獨品は廉價であつた所から我邦への輸入も殆ど獨品に限られてあつたが最近獨品は種々の關係から漸次昂騰し米品に鞘寄せして來た、殊に今

回獨逸では鐵道運賃を一躍五十パーセント方引上げたから夫だけ鋼鐵價格も昂騰した譯であるので略々米品價格と軒轅なきに至つた、故に獨品の輸入は益々不引合となり目下米國鋼鐵の輸入は愈々旺盛となりつゝある、而して米鋼生産は全能力一箇年五千四百萬噸に對し現在千八百萬噸で財界の恢復鐵道敷設等のため需要增加の傾向あるけれども涉々しからず爲に獨立製鐵所は何れも漸次値下げを爲し、尤もユー・エス鋼鐵會社のみは昨年末に於ける註文殘高四百二十六萬噸即ち三箇月間の生産に該當するものを持つて居るから却却强硬で容易に値下せずに居るが、四圍の情勢から考察するに早晚値下げの已むなきに至るであらう、左れば米鋼の我邦での輸入は更に便利となる譯である。

◎獨逸工業界の現狀 大正十年九月七日オリンピアに於ける船舶發動機機械展覽會の開催に方りてヴキカース株式會社副社長にして專務取締役たるドレヴァー、ダウソン卿は英國工業界の現況に付て有益なる演説を爲し又最近に於ける獨逸視察談に言及する所ありたり、今其要點を抄譯すれば次の如し。

予は約一箇月前獨逸に滯在し其の間二大工場に付て労働状態を調査するの機會を得たり、一は電氣大工場にして他は獨逸に於ける主要なる鋼鐵並機械工場なりき、是等二大工場は共に殷盛にして労働者は互に調和を保ちて就業し且つ其の產額は甚大なるを睹たり、電氣工場に於て予は戦時中其工場及機械を幾何に表價せるやを質問せるが彼等は一馬克として記帳せる旨を答へたり、尙予の聞く所に依れば戦時中獨逸には強制軍需品製造又は超過利得税等の負擔無く其の結果工業は

運轉資金を吸收して財政上何等の困難を感じることなく平和的生産物の製造に着手することを得たりと、斯くして工業は良好なる經濟上の條件の下に於て世界市場に雄飛するを得たり、予は勞銀の平均支給額を訊ねたるに一日八時間労働にして一時間に付四馬克を支拂はるゝを常とすとの事なり、英國の工場及機械は巨額の資本を固定し且運轉資金は強制軍需品製造又は超過利得税の爲に減少を來し又平均勞銀の支拂額は獨逸に於ける四馬克（今日の爲替相場にて約三片に該當す）に對しては一時間一志九片の割なるの事實に鑑みて兩國の懸隔甚しく英國の困弊は獨逸に比して顯著なるものゝ如し。

予は又獨逸に於ける最大なる機械工場に於て如何なる種類の工場が兵器製產增加の爲に充當せられしやに付て訊ねたるに對しては最も完全なる設計及設備を有する汽罐車工場に指示せられたり、同工場は順序よく構成せられ其れが爲に原料品は一方の口より搬入せられ逐次加工を施され汽罐車は最後の工場に於て完成し鐵道上に何時にも就役し得る如く準備せられたり、予の聞く所に依れば該工場は特別の注意を以て汽罐車の製造に關して最も經濟的に計畫せられたるものなれ共戦争に方りて重砲据付裝置の製造を義務付けられたりと、此事實は戰爭の高潮期に於てすらも獨逸人が何を考へ又如何に徹底的に戰後に於ける經濟狀態を研究し且豫想せるかを雄辯に語るものといふべし。（デリー・テレグラフ九月八日所載）

## ◎一九二二年度佛國勞働賃銀

（大正十一年十一月十七日附在里昂帝國領事代理副領事若月蘋次郎報告）

佛國に於ては毎五年勞働賃銀の調査をなし之が統計を公表し

來り一九二一年度は恰も同調査週期に當りたる處十一月一日のアンフォルマーション紙上にて右統計の摘錄を掲げたり。

本統計は各地方の工事審理會又は同會のなき地方は縣廳所在地市役所より齎せる各回答の統計にして一般に小工業就業者に就て調査せるものなり。

本年度賃銀は五年前即ち一九一六年度に比し著しく騰貴し巴里を除きたる各市の平均日給は男子労働者一六乃至二〇法又女子労働者は九乃至一〇法に該當し巴里市に在りては二五法乃至三二法にして同上女子は一六法見當なり、之を二週期前の一九二一年度に比すれば約四倍の昂騰にして時間給に於ては更に騰貴して五倍に當れり、之が差異の原因は八時間制適用の招致せる結果にして勿論所得問題考量の致せる所なり而して主として戰前の低廉なりし工業賃銀の騰貴最大にして例へば煉瓦工(三八七%)、土工(三五〇%)の如き特出せるものにして大多數の男女工に於ては二九〇%乃至三三〇%の上騰なり、現行賃銀は同一職業に在りても縣を異にして著しく差違ありて、即ちアン縣オイオナに於ける裁縫工の時間給は一法なるも同上ノール縣オーブールダンに於ては三法五〇參にして又巴里を除きたる各市の右平均額は二法二〇參を示せり、勿論生活費は到る所同額の上騰を見ずと雖も、賃銀の差等よりも遙に平均せり、即ち各職業の平均賃銀を見るに最低上部アルプ縣の一二法五〇參より最高アルデンス縣(ザール流域亦同額)の二七法を示すが如くにして今は等諸縣を高低順位に類別すれば次の如し。

一、二五法以上十五縣即ちセーヌ、アルデンス、ローヌ、エヌ及バード・カレー諸縣

二、二三法乃至二五法十三縣即ちセーヌ・エ・オアーズ、オアーズ、セーヌ・エ・マルス

三、二一法乃至二三法一五縣即ちソムコートドル、ムールト・エ・モゼール、ロアール、アリエ、アヴエイロン、マルヌ、下流セーヌ、デロンド、ノール、ポーチュ、上部マルス、ローヌ河口及モーヴェル、アンドル

四、一九法乃至二〇法十九縣即ち下部ライン、ピュイ・ド・ローヌ、エロー、アルブマリチム、ニエーヴル、下流ロアール、カントタル、ムーズ、アンドル

五、一七法乃至一九法十二八縣即ち上部ガロンヌ、オード、ロ

アレ、ガール、上部ヴィエンヌ、ドウ、アンドル・エ・ロアール、上部ライン、ユール・エ・ロアール、ヴォークリューズヌイヌ・エ・ロアール、カルヴァドス、上部ザヴォア、東部ビレネ、上部ソーヌ、イオンヌ、ロアール・エ・シエール、ドローム、デュラ、下部

シアラント、ソース・エ・ロアール、サヴォア、ヴヰエンヌ、ドルドンギュ、オルヌ、マイエンヌ、シエール、ヴァンデ

六、一五法乃至一七法一一八縣即ち下部ビレネ、コルシカ、イユール・エ・ヴィレヌ、ドウセーヴル、上部ビレネ、クルーズアン、ユール、コレズ、上部ロブル、シアラント、フイニステール、タルヌ・エ・ゴロンヌ、ロ・エ・ガロンヌ、コート・デュ・ノール、タルヌ

七、一五法以下十八縣即ちランド、モルビアン、ロ・アルデンヌ・デュ・ブル、ロゼール、アリエヂエ、下部アルプの諸縣是なり。一九二一年度賃銀指數は一九一一年度を一〇〇とし、最低二七五(アリエヂエ縣)より最高五八四(バード・カレー縣)の差等ありて最上騰せる諸縣はムーズ及ムールト・エ・モゼール二縣

を除きたる戰線諸縣竝に戰前比較的低廉なりしピュイ・ド・ローヌ縣(五〇八)の如き諸縣なり。

大工業に於ける賃銀状態 更に如上工事審理會調査の小工業賃銀を除きたる大工業界の賃銀状態を見るに例之巴里地方に於ける金属工業就業の最低労働賃銀は大略次の如し。

地 方 別	平 法			熟練工			最下級 法	最上級 法	特技工	普通工	女 子
	工	工	工	工	工	工					
一九一七年五月	八・〇	八・〇	八・〇	九・五	九・五	九・五	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
同 年十一月	九・五	九・五	九・五	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
一九一八年七月	一一・五	一一・五	一一・五	一二・五	一二・五	一二・五	一・五	一・五	一・五	一・五	一・五
一九一九年四月	一五・〇	一五・〇	一五・〇	一六・〇	一六・〇	一六・〇	二・五	二・五	二・五	二・五	二・五
一九二〇年四月	一七・〇	一七・〇	一七・〇	一八・〇	一八・〇	一八・〇	三・五	三・五	三・五	三・五	三・五
一九二一年三月	一六・〇	一六・〇	一六・〇	一六・五	一六・五	一六・五	一・五	一・五	一・五	一・五	一・五
同 年六月	一四・〇	一四・〇	一四・〇	一四・五	一四・五	一四・五	一・五	一・五	一・五	一・五	一・五

巴里地方製鐵及機械工業團體の調査せる同地方の一九二〇年五六六月に於ける實際支給額は平工に薄く特技工にありては最低賃銀の九〇%迄を加給し機械鑄造工の如き二法六六參を最低とし同工の約四分の一以上は何れも五法以上を收得せり。

一九二一年度初期に當りルベルコアンの機織工業同盟は製絲及織布工業の各中心地に於ける支給額を調査し其結果によれば次表の如く同地方最高給なりき。

#### 地 方 別

##### 製絲職工

木 縱 三、二一

一、四六五

##### 織布職工

木 縱 二、六九

ト ロ ア ン 二、二一

二、九五

以上の計數も最早賃金低減の結果異なるは勿論なるもルベルコアン各市に在りては戰前已に他所以上に高騰しき其增加係數も又更に他地方より遙に騰貴せり、即ち機織に於ける指數はルベ五六二、エルブフ四四七、ルアン三八八、エビナル四七一マザメ四三三の割合なり。

農業賃銀 一九二一年度調査の三四縣平均日給は一九二一年度の三法三五參に對し一四法二五參に上り三二五%の激増なり、從て農業賃銀は工業賃銀に匹敵せる騰貴率を持したるも甚だ不平等にして上部ライン縣一八〇%の如きもあれば又ノール縣の五八〇%を示すが如きもありて差違著しきを見る

賃銀對生活費 賃銀對生活費問題に相連る關係極めて密接にして且最も興味ある研究資料なりとす。

今更に歩を進めて同紙の記事を採録し佛國各都市の平均指數を求むるに次の如し。

一九二一年度指數一〇〇に對する一九二一年度指數

エビナル 一一一〇  
ミユールーズ 一一一五  
エルブフ 一一一五  
ヴィエヌ 一一一五  
カストン 一一四五  
ラブルネ 一一一〇

梳毛羊毛(laines peignées)  
ル 一一一八  
エルブフ 一一五〇  
ヴィエヌ 一一一五  
カストン 一一四五  
ラブルネ 一一一〇

一一一〇  
一一〇〇  
一一一〇

日給

一九二一年度

一九二二年

男 子

四一〇

一二六

食料住居の週經費

四二一

一二五

食料品小賣價格(十三種)

四二七

一四一

右表の如く一九一一年度に比し一九二一年度に於ては約四倍の増加なるも之を横に見れば各縣別に従ひ同じからずして即ち二五縣に於ては賃銀指數は食料品に超ゆると雖も他の五五縣に在りては全く相反せり。

一九一四年以降の状況を案するに物價の騰貴を誘起せる這次の大戦に當り軍事工業從事員の賃銀は概して騰貴せるも其他の業に至りては遙に低廉にして對比すべきに非ず、

一九二一年初期に於て一般賃銀の低下を生じたるも之を工業労働者に見るに其率六乃至一九%にして生活費の低減は僅二〇乃至二四%なるを以て大部分賃銀の低下率遙に生活費に劣りたる上更に最近數ヶ月間に於ける各地工業の休業或は操業短縮等は勢ひ賃銀の大減額を生ぜしめたり。

然れ共佛國各地方當局者は既に一ヶ年餘に亘る經濟危機の結果誘起せられたる賃銀對生活費の不權衡に對し極力之が改善を期するもの如し。

●素鋼鐵の註文 英國シェフイールドに於ける鋼鐵製品製造業者に對し最近日本から意外な提議をして來た、それはシェフイールドで製造する鋼鐵製品は今後日本に於て電氣鍍金をかけるから鍍金せずに送つて呉れと云ふのである、之れに對しシェフイールドの製造業者の意見を聞くにシェフイールド品の評判が好いものは主としてシェフイールドの電氣鍍金術の優れて居る爲である故に此提議は到底承諾する事が出

來ない、當業者は目下訪英中の日本實業團に對し此の問題に就き其の注意を促す筈であると。

### ●米釘大輸入

内地に於ける釘の需要は一箇年六十五萬樽の多さに達せるに對し、我製鐵業者の製釘能力は原料たる

ワイヤロッドの昂騰せる關係上漸次減少して僅に十五萬樽内外に過ぎない、故に差引五十萬樽以外のものは如何にしても海外から輸入して需給の均衡を得るより外に途がない譯である、而して從來割安な所から主して獨逸釘を輸入して居つたけれども客臘來獨逸品經濟上の種々な原因から價格遽かに昂騰し却つて米國品よりも高くなつた、現に最近の調査によれば前者は横濱着一樽に付き十三圓七十錢、後者は十三圓二十錢である、加之ならず獨逸品の輸入は輸送上の不安もあるから我當業者は今や専ら米國から買入るゝ有様で、曩に三井物産一手を以て米釘十五萬樽の買入契約をなし毎月輸入せられつゝあるが今回更に二三大手筋から二十萬樽位の買註文を米國に發したさうである。

### ●米國製鐵業現況

紐育コンマーシャル紙の調査する所に據れば昨年の鋼鐵地金產額は其の前年の半額に満たざる約二千萬噸に過ぎず、又銑鐵の製造高は一昨年の三千六百五十萬噸に比し昨年は約二千四十二萬噸の減少なるが本年に入り諸會社共に更に漸次其の製造額を減じ合衆國製鋼會社に屬する諸會社は目下四割六七分、獨立諸會社は約二割八分見當りを働き居れりと、因に昨年末現在製鐵工場に對する註文高は約四百二十六萬八千噸にして、前年に比し三百八十八萬噸の減少を示せり、尙諸會社は此の先き主として鐵道車輛及軌條の如き相當註文增加すべきもの其他に對し左程期待し居らざ

るものゝ如し。

○米國製鋼業狀況 近來獨逸品が盛んに輸入され其の値段は米國に於ける生産費よりも五分の一乃至三分の一安である、是れが爲めに數十の米國工場が閉鎖され數千の職工が職を失ふに至つた、一月卅日から華盛頓で開かれた製造業者の全國大會に於て是れが大いに問題となつた、クルーシブル鐵工會社の社長は獨逸製の鋼鐵工具が紐育で米國の生産費の約五分の一で賣られて居ると述べた、此の種の鋼鐵を製造する米國の會社三十箇所の中五箇所は破産するに至つた、未だ破產しないものも僅かに二割七分の作業率で仕事を續けて居るに過ぎない、是れが爲めに製造業者及び労働者の團體は議會に對し速かにフォードニー關稅法を通過すべしと要求して居る。

### ○米國に於ける亞鉛需給狀況

(大正十年十一月三十日附在  
紅帝國總領事熊崎恭報告)

亞鉛の最も重要な用途は電鍍鐵を作るに在り平時に於ては亞鉛の約六割は此用途に充てらる、又亞鉛は多量に真鍮製

プライマリー、ジンク	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年	一九二〇年
米國鑛石より得たるもの	三三七、三五二	三四二、四一八	四五八、一三五	五六四、三三八	五八四、五九七	四九二、四〇五	四五二、二七二	四四九、〇〇〇
輸入鑛石より得たるもの	九、四二四	九、六三一	三一、三八四	一〇四、〇〇五	八四、九七六	二五、五二二	一三、四七一	一四、〇〇〇
計	三四、六七七	三五三、〇四九	四八九、五一九	六六八、三四三	六六九、五七三	五一七、九二七	四六五、七四三	四六三、〇〇〇
セコンダリー、ジンク	八九、五二八	八四、六〇七	一〇八、七五八	一二九、二〇〇	一三二、〇〇〇	一三七、〇〇〇	一三〇、三〇〇	一四一、〇〇〇
總計	四三六、三〇四	四三七、六五六	五九八、二七七	七九七、五四三	八〇一、五七三	六五四、九二七	五九六、〇四三	六〇四、〇〇〇
備考	千九百二十年分は總て見積額なり							

輸出額 上記の產額は米國內の需要に超過するを以て過剰額は外國に輸出せられ戰爭中輸出額増加したるが休戦後減退

造に用ひられ製出したる真鍮の三割三分は亞鉛なり、大戰中鐵の使用を制限したる爲、電鍍鐵の產出非常に減じ從て此方面に於ける亞鉛の需要衰へたるも一面真鍮の需要増大したる爲亞鉛の需要額は却て増加を見たり、又亞鉛板はタブ（浴槽等）のライニング、家内諸設備用、各種キャスティング用に充てられ其用途頗る廣し。

○產額 米國戰時工業局の調査及千九百十三年世界鑛物產額統計によれば米國は世界に於ける亞鉛總產額の約三分の一を產出するものと見積らる、米國以外の主要產國は白耳義、獨逸、濠洲、奧地利及英國とし平時の產額に於ては白耳義第二位、獨逸第三位を占めたり、米國の亞鉛產額の一小部分は外國より輸入したる亞鉛鑛より製鍊せられ戰爭中は輸入額増加したるも戰後再び減退せり、新に開掘したる鑛石又は輸入鑛石より得らるゝプライマリー、ジンクの外多量のセコンダリ、ジンクは溶解したる屑金屬類より得らる。

今千九百十三年以降米國の亞鉛產額を左に表示すべし。

(單位短噸)

一九一三年 一三、一八九短頭  
 一九一四年 七〇、二四一  
 一九一五年 一三〇、八七八  
 一九一六年 二〇六、四一五  
 一九一七年 二一八、四七七  
 一九一八年 九五、一四四  
 一九一九年 一四一、七六四  
 一九二〇年 一一三、五〇〇

一九〇九年 二七〇、七三〇短頭  
 一九一〇年 二四五、八八四  
 一九一一年 二八〇、〇五九  
 一九一二年 三四〇、三四一  
 一九一三年 二九五、三七〇  
 一九一四年 二九九、九八三  
 一九一五年 三六四、八八五  
 一九一六年 四五九、三一七  
 一九一七年 四一三、六四三  
 一九一八年 四二三、七九三  
 一九一九年 三三三、九六四  
 一九二〇年 三三四、〇〇〇

て却て増加したり、又アルミニウム、ニッケル、銅及真鍮の供給不足なりし結果亞鉛は此等諸金属の部分的代用品として新用途發見せられたり、過去十二年間米國に於ける亞鉛消費概算左の如し。

採掘及選鑛 亞鉛の販賣上最も重要な要素は鑛石より地金を得るの難易に在り、ジョプリン地方(ミズリーリー州)に於ては鑛石採掘極めて容易且つ選鑛簡単にして高價なる鑛業用設備を要すること渺し、反之他の地方にては深き堅坑を要し設備も稍複雑なるを以てジョプリン地方は競争上有利なる地位を占め從て實際上市場を左右し居れり、又亞鉛鑛石より金属を得る冶金手續は他の多數の金属に於けるよりも遙に簡単にして費用を要すること渺し、從て亞鉛の產出は需要の變化に最も敏感なるを常とす、換言すれば設備に多額の資本を固定することなくして急激に産額を増加することを得べく又容易に産額を減縮することを得べし、其結果亞鉛の相場は比較的變動の少いを例とす。

消費額 亞鉛の種類は市場に於て high grade, intermediate, brass, special 及 prime western の四に分たる。ハイグレードは最良質の真鍮製造及ローリングシートに用ひられ、プライム・ウエスターは電鍍用に充てられ最も豊富なり、戰時工業局の調査によれば戰前亞鉛の消費量は一年約三十一萬噸なりしが戰爭中合金製造の爲、需要増加したり電鍍工業は前述の如く鐵消費制限令の爲減少したる亞鉛の需要は他の方面に於

標準相場 亞鉛は通常市場に於ては現物取引行はるゝも鑛業家と需要者との間に二、三ヶ月後引渡の約定をなし處分せらるゝもの多し、而して現物相場と先物相場との間には一仙乃至三仙の開きあり、此開きは市場の景氣により多少の變化あり、戰爭中一、二回全然皆無となりしことあり、米國の商習慣によれば亞鉛の標準相場は東セントルイス渡を以て呼ぶる米國產額の三分の一以上はミズリーリー鑛山より産し、鎔鑛場は附近諸州(イリノイ州、カンサス、オクラホマ)に在り、ニュージャージー、亞鉛會社はペンシルバニア州、バーマートンに、アナコンダ銅會社はモンタナ州グレート・フォールスに工場を有す、然れども鎔鑛場の所在如何に拘らず相場は東セントルイス相場を標準とす從て本品の相場は略一定し居り產地が異

なる結果運賃に於て相違を來すことあるのみなり。

戰時に於ける相場の變動　亞鉛相場の標準を知らんが爲、先づ戦前五ヶ年の亞鉛平均相場を示せば左の如し。〔建值單位  
封度〕

一九〇九年	五・三九 <sup>値</sup>
一九一〇年	五・四二
一九一一年	五・七〇
一九一二年	六・九三
一九一三年	五・六一
五箇年平均	五・八一

戰爭勃發の時に在りては亞鉛の在荷多量に存し市況不活潑なりし爲、相場は下向の傾向を示せり、然れども二、三月にして形勢一變し獨軍の白耳義侵入により同方面よりの亞鉛の供給不可能となり米國品の需要増大し相場は漸騰を示すに至れり、而して早くも千九百十六年二月に於て相場は絶頂に達し爾來漸落の傾向を取り米國の參戰も之を阻止する理由とならざりき、是れ戰爭の初期に於て相場騰貴したる爲、鑛山の設備は大に擴大せられ產出は急激に増加せられたるを以てなり、今開戰以來亞鉛(Prime western-St. Louis)の月別平均相場を示せば左の如し。(一封度に付仙)

	一九〇四年	一九〇五年	一九〇六年	一九〇七年	一九〇八年	一九〇九年	一九一〇年	一九一一年
一月	一 六・三	一 六・三	一 六・一	一 六・一	一 九・三	一 九・三	一 九・三	一 九・三
二月	一 六・三	一 六・三	一 六・三	一 六・三	一 一・三	一 一・三	一 一・三	一 一・三
三月	一 九・〇	一 九・〇	一 九・〇	一 九・〇	一 一・九	一 一・九	一 一・九	一 一・九
四月	一 一・九							
五月	一 一・九							
六月	一 一・九							
七月	一 一・九							
八月	五 五・五	一 一・九						
九月	一 一・九							
十月	一 一・九							
十一月	四 四・七							
十二月	五 五・九							

相場抑制の不必要　上記の如くなるを以て亞鉛の相場殆ど抑制の必要なし千九百十七年四月中Council of National Defenseは本礦業代表者より成る諮詢委員を設けたるが該委員は政府に對し單に公平なる相場を以て買上られたき希望を述べたるに過ぎず、一般需要者に取りては需要の增加甚だしからざりし爲供給十分なりき。

千九百十八年二月戰時工業局は東セント・ルイス渡A品十二仙を最高相場と定めたる爲、A品の產出を幾分刺戟したり兎に角實際の需要以上に増加したる亞鉛の供給を如何にして處分すべかは當時に於ける問題なりき、本品は休戰後の景氣に浴すること少く一般物價の騰貴につれて幾分は騰貴したるも千七百十五年最高相場よりも遙に安く又不景氣の襲來により更に安値に下落せり。

現況及將來の豫想　目下亞鉛に關し最も重要なは過剩品多く月々持越す在荷大なるのみならず一九二一年五月迄は在荷が増加したことゝす左に之を表示すべし。

#### 米國に於ける亞鉛在荷平均月額

	四〇、六五九 <sup>短頭</sup>
一九一三年	二〇、〇九五
一九一四年	一四、一五三
一九一五年	一七、五九八
一九一六年	五三、七二一
一九一七年	四一、二四一

一九一九年  
一九二〇年

三七、四八五  
四〇、四四三

米國に於ける亞鉛在荷月別表

一九二〇年

三七、〇九三

三一、〇一九

三二、五一〇

二九、三三五

二六、八五四

二八、〇三九

二九、五七八

四二、九〇〇

五一、二三〇

六四、三九〇

七一、〇五八

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一九二一年

七五、九五

八七、〇二〇

八二、二五二

八一、四四三

八五、八一二

八九、八九八

九二、四〇八

八六、五四九

※ 七六、〇〇〇

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

上の下落はなかるべくも其騰貴は遅々として漸進的なるべし  
鐵及銅の恢復は本品の市況に特別の好影響を與ふべくも亞鉛  
の市價恢復が一般商品の恢復より迅速なりとは信じ難し。

然るに一面消費年額を見るに千九百九年以來著しき増加を  
見ず又今後數年間に消費額の著しく増加すべき見込もなし從  
て統計上より見たる亞鉛の市場は特に樂觀し得べきものに非  
ず、然れども在荷は堅く保存せられ市場に安賣せらるゝ模様  
なく相場が相當なる時にのみ販賣せらるゝ有様なり、現在(十  
一月)亞鉛の相場は戰前五ヶ年平均相場よりも遙に安らる  
般市場の恢復に伴ひ亞鉛も遅々と騰貴すべしと思はる既に鐵  
及銅の好況に伴ひ電鍍用亞鉛の需要も稍増加の氣味あり。

一般物價の新標準が戰前五ヶ年平均相場より約二割五分高  
と假定する時は亞鉛は七仙五厘とならざる可らず、然れども  
此標準まで進むには先づ現在堆積せる在荷が處分せらるゝこ  
とを要す、前述の如く亞鉛は最も下落甚しき商品にして是以  
て統計上より見たる亞鉛の市場は特に樂觀し得べきものに非  
ず、然れども在荷は堅く保存せられ市場に安賣せらるゝ模様  
なく相場が相當なる時にのみ販賣せらるゝ有様なり、現在(十  
一月)亞鉛の相場は戰前五ヶ年平均相場よりも遙に安らる  
般市場の恢復に伴ひ電鍍用亞鉛の需要も稍増加の氣味あり。

該製鐵會社は The United Steel Corporation of India Limited  
と稱し最早登錄於在カルカッタ Bird & Co. 及在ショフィ  
ールド並に在ロンドン Cammell, Laird & Co. 兩會社の合辦  
に係り其資本金二億留比、會社工場設立地點は判明せられる  
れども兎に角銑鑛、石炭及石灰石等の供給至便の地點を選び  
設立せらるゝ由にて前者即ち Bird & Co. はカラムプラに近き  
地方及其他に廣大なる炭坑及鐵山石灰山を有し居ることにて  
主として此等提供の任に當り後者即ち Cammell, Laird & Co.  
は主として會社一般技術顧問役たる資格に於て工場の設計並  
に會社經營方面に對する責任を負擔すると傳へらる。

(大正十年十一月十八日附在カル  
カッタ帝國總領事今井忍郎報告)

而して同會社毎年の生産率は銑鐵六十萬乃至七十萬噸及鋼鐵四十五萬噸を產する計畫なりと云ふも最初の第一歩としては前述半額の生産工場規模に止め置く可しとのことなり。又同會社の重役會は印度に設け其印度財界に重きをなす印度人を重役に加ふる筈なり尙同會社の顧問は既にロンドンに於て選定され次の人々より成る趣なり。

Cable 卿、Inchape 卿、Meston 卿、Sir Trevredyn Wynne, Mr. W. L. Hichens; Mr. J. M. Allan 及 Mr. Max Muspratt の七氏なり。

因に同會社は留比資本なるも其趣意書に於ては株券名義書替の事務所はロンドンに設けて其申込は留比株のロンドンに於ける英貨の株式取引所公定相場に準じ行はるゝ由なり。

●印度鐵鋼業の勃興 従來印度の製鐵、製鋼、製銅事業としてはベンガル製鐵會社、タタ鐵鋼會社、ケーブ製銅會社の三會社がある許りで國內の需要を満す事が出來ず國外から供給を仰てゐたが、近時斯業の勃興を見るに至り續々と新設計畫乃至増設工事に着手してゐるから、茲五年内には異常な發展を見るに相違ないと豫想されてゐる、新設會社としてはアサンゾールに印度鐵鋼會社、チャンドルには東方製鐵會社、マンハルブルの近くに一大會社が建設される筈であるが、是等の三會社は何れも印度第一の稱あるタタ鐵鋼會社と同様の設備で同様の生産高を出さんと目論んでゐる、鑛石及び石炭は各會社の近傍に產出するものを使用してゐる、アサンゾール鐵道のベンガル、ナグブルの東方並に西方に二大炭坑區があるが最近マンブーム、シンプーム、ケオンデヤール、ボナイの各地に大鐵礦を發見したから是等新設會社の完成と各

會社の擴張工事の終了と相俟つて印度の製鐵製鋼の事業は異常な發展を示し從來不足勝ちの印度内地の需要を満足させた上に極東方面や印度近隣の市場に販路を擴張して活躍する事と思はれる、現在及び新設會社名、製品目を列記すれば次の通りである。

ベンガル製鐵會社(銑鐵)▲ケーブ銅會社(銅)▲イースタン鐵鋼會社(銑鐵銅鐵)

▲印度鐵鋼會社(銑鐵)▲タタ鐵鋼會社(銑鐵、鋼鐵)▲印度亞鉛會社(亞鉛、硫酸)

▲印度鋼線會社(鋼線)▲トラン製銅會社(鐵筋コンクリート用材)

### ●各國の銑鐵生産費 八幡製鐵所で調査した米國三大銑鐵生産地の銑鐵生産費左表の如し。

ビツツバーグ

鐵 石	一八	一一、四二
灰	一、四	○、四八
骸	一、〇	四、五〇
諸材料 裏附料		○、八一

鐵 石	一、七	一一、四〇
灰	一、四	一〇、一七
炭	一、〇	〇、四八
動	一	七、〇〇
シカゴ		一、六八

鐵 石	一、七	一一、四〇
灰	一、四	一〇、一七
炭	一、六	〇、八一
動	一	七、〇〇
バーミンガム		一、六八

鐵 石	二、七	一一、四〇
灰	一、四	一、六八
炭	一、六	一、六八
動	一	一、六八
諸材料 裏附料		一、三四

右の生産費は英噸當りに換算すればシカゴ高く十九弗五十

四仙、ピックバーク十九弗二十九仙バーミンガムは安く十五  
ガム三十二圓四十錢である、これ八幡製鐵所の現行単位に換算すると頃當り

シカゴ四十圓六十四錢ピックバーク四十圓十二錢、バーミン  
ガム三十二圓四十錢である、これ八幡製鐵所最近の銑鐵生產  
費頃當り五十圓に比すれば米國品は頗る安價である、尙大正

十年に於ける海外諸國の銑鐵生產費平均額は頃當り英國四十  
二圓、米國三十二圓、印度二十三圓、支那三十六圓で英國が

最近に於て三十圓内外に降下した外は各國共大差はない十一  
年度中漢治萍より製鐵所に買入れる銑鐵の數量は合計約八萬  
噸の豫定で内二萬噸は從來の契約通り頃當り二十六圓である  
が残り六萬噸は英國の現銑鐵價格と廿六圓とを平均した價格  
で買入れる筈で製鐵所としては少なからぬ不利な立場となり  
殊に漢治萍が服部前製鐵所技監を顧間に任用して同地の製鐵  
所を擴大し從來礦石のまゝ輸出して居たものゝ大部分を銑鐵  
として輸出する方針になつたなどの事より八幡製鐵所の原料  
價格は一段の高價となる譯である。

○米國の銑鐵生產費及運賃 西部ペンシルヴァニア  
州一大製鐵會社が發表せる一九一三年及一九二〇年に於ける

運賃率と二〇年の運賃率を土臺とする本年銑鐵生產費次の如  
し、數字はヴァレー地方鎔鑄爐の銑鐵生產費に關するのにし  
て、運賃率は一九一三年に比し五弗三一仙増進を示せり。然  
るに本年に於ける大湖の運賃率は昨年より三十仙値下せられ  
爲めに運賃の見地よりすれば礦石の運搬費は約六十仙減少し  
居るもヴァレー地方の鎔鑄業者は昨年の運賃率にて運搬せら  
れたる材料の在庫品ありとすれば本年に於ては其在庫品を以  
て銑鐵を製造すべしと思惟せらる。此の見地により鎔鑄爐に

使用する礦石及其の他の材料の生產費を市價を度外視して示  
せば次の如し。

#### 銑鐵一噸當り原料運賃

一九一三年  
一・三二  
弗仙

石炭

一九二〇年  
一・七七  
弗仙

石炭  
鐵鑄石(上部鐵道)

○・一七  
一・一〇

○・四二  
一一・〇〇

同  
(湖)

一・一〇  
一・一二

一一・四八  
一・九九

同  
(下部鐵道)

○・一五  
五・一六

○・五〇  
一〇・一六

其他の材料(概算)

○・一五  
○・五〇

○・五〇  
一〇・一六

合計  
稅金

五・一六  
一〇・四七

一〇・三一  
一・九二一年

運賃  
ザアレー地方鎔鑄爐に於ける一噸當り銑鐵生產費

一〇・四七  
一・九二一年

一〇・四七  
一・九二一年

貨物  
ミネソダ鑄石(山元)

六・四〇  
三・三〇

一・九二一年  
一・九二一年

石炭  
コンネルスヴィル骸炭(爐波)

○・七〇  
四・〇〇

一・九二一年  
一・九二一年

石炭  
(山元)

一・四・八七  
一・四・八七

一・九二一年  
一・九二一年

労力其の他

四・〇〇

一・九二一年  
一・九二一年

合計

一・四・八七  
一・四・八七

一・九二一年  
一・九二一年

備考

ヴァレー鎔鑄爐に於ける一九一三年のペーシック銑の平均市價は一四

弗六三仙現今(七月)の市價は約十九弗

(The Iron & Coal Trades Review, Sept. 21, 1921)  
(The Iron Age, July 7, 1921)

○製鐵所經費節約 八幡製鐵所では鐵價下落のため生  
產費不引合となつたが昨年八月以降生產費節約法調査委員を  
置き各工場毎に節約を實施した結果從來一箇月六百萬圓を要  
したもののが最近に至りては四百五十萬圓位にて製出し得るこ  
ととなり從つて鋼材一噸に付二百圓を要した生產費は頃當り

百五十圓位となり目下の鋼材價格百五十圓見當に比し漸く生産不引合の域を脱したりと云ふ。

◎米鐵輸入防止問題 本邦の製鐵界は戰後の第二次打撃に續く第二次財界動搖の厄に遭遇して非常なる影響を蒙り其の傷痍未だ全く癒えないのに海軍制限に依る軍備縮小の實行となつたので、三度工場整理を斷行する事となつた、門司某消息通の語る處に依ると海軍々備縮小の結果最も大なる打撃を蒙るべきは淺野製船所長崎製鋼部の百パーント、兼仁浦製鐵の九十パーント、三菱造船所長崎製鋼部の九十パーントと住友鑄造所の八十パーントが其の主なるもので早晚廢縮何かを運ばなければ成らぬ危急の運命にある八幡製鐵所は流石に本邦製鐵界の權威であり販路の如きも各方面に亘つて居るから今後軍縮の結果全然海軍の需要杜絶するも打撃の程度は三十パーント内外に止まるであらう、而して關係方面の工場は此の重大時期を如何にして切抜けるかは最も注目に値する處であるが理想としては本邦製鐵業者の大合同を行ひ、内にあつては極力生産費の低下に努め、外に向つては米鐵の輸入を防止するが最良の手段であらう、昨大正十年度に於て米國から本邦へ輸入した鐵材及び銑鐵の總噸量は未だ不明であるが、大正九年の米國鐵材九十萬噸（銑鐵は鐵材九十萬噸の二割五歩増見當）を輸入消化したに徴し、昨年は更に幾分の增量となつて居るのは明かである、今後本邦製鐵業者が協力して極力外鐵の輸入防止に努むるも斯く多量の米國鐵材及び銑鐵の輸入を全然防止し得るは云ふまでもなく結局するに軍艦の爲め本邦製鐵業者の蒙る鐵材十八萬噸、銑鐵二十三萬噸の剩餘即ち二割五歩見當乃至三割見當だけ外鐵の本邦輸入

を防ぎ得れば大なる打撃を見ずして済む譯である云々。  
◎秦皇島製鐵所と寶興、龍煙兩鐵鑛 開灘鑛務局は秦皇島に製鐵所設置の計畫を建つるや倫敦採礦冶金協會會長鑛山技師フランダーメリック氏を聘して長江一帶其他の鐵鑛調査を依嘱し其報告に基き安徽省蕪湖附近にある寶興公司所有の鐵鑛有望なるを知り且同局が松昌洋行よりチャーターセル汽船が開灘炭を長江一帶に輸送せる復航を利用し鐵鑛の運搬をなすときは極めて低廉に鐵鑛の運送をなし得べきを以て該鐵鑛の買取を交渉し昨年一月二十三日之が契約を締結し且つ同年三月五日附支那政府より向ふ三箇年間其稅を許可せられたりと云ふ。

尙同鑛務局は同年九月直隸省龍關縣なる龍煙鐵鑛公司に對しても該鐵鑛の合辦を申込み梁士詒其他親英派の同意を得たるも同鑛總辦陸宗興等の反対の爲めに開灘と合同の議は中止となれりと傳へらる、今寶興公司竝龍煙公司の概況を略述せん。

寶興公司 寶公司は李維格、王國臣等により安徽省太平府なる大凹山小凸山及平山の鐵鑛採掘を目的として設立せられたるものにして、平山は既に數年來之が採掘をなし山元より茅家橋に至る約半哩の間は輕便鐵道を布設し夫れより民船により約八哩にして長氾岸なる同鐵石積取場采石磯に達し是より汽船によりて輸出しつつあり。

大凹山及小凸山は采石磯より約十哩の地にあり昨年より外人技師を雇入れ兩地間輕便鐵道の布設計畫をなさしめつつあり、而して其の鑛量に付ては之を五百萬噸と稱するも目下同公司より買鑛しつつある三菱公司上海支店長橋本十五郎氏の

説によれば平山の鐵礦は決して世評の如く有望のものにあらず品位五十パーセント以上のものに至りては今後僅に八千噸にて盡くべく大凹山小凸山の礦石は目下の處品質上等なるも礦量確實ならず、之を要するに寶興公司の鐵礦は世評の如く有望にあらざるべしと。

因に一時礦區權に關し振治公司と係争中なりし太平府南方鐘山の鐵礦は礦量大且良質にして貯藏既に五萬噸に達し内十五パーセント以上のもの裕に三萬噸を選出し得べく頗る有望なるも右は事實履方沖經營の振治公司の所有にして寶興公司のものにあらずと。

目下三菱に於て購買しつつある同公司鐵礦は采石機F.O.B銀四元なりと云ふも直接採礦費は畠約一元二十仙にして采石機着原價二元二三十仙に過ぎずと云へば運送費（復航空船腹利用として）及積卸費を加算するも秦皇島着畠四元に満たざるべし。

**龍煙鐵礦公司** 龍煙鐵礦公司は元と陸宗興が督辦たりし龍關鐵礦公司と、梁士詒の煙筒鐵礦公司との合同したるものにして龍關公司の礦區は直隸省龍關縣下龐家堡馬峪口麻峪及辛窑の三區にして民國五年六月陸宗幹の出願に係り宣化を去る約二十三哩の地にあり、龐家堡は鐵道より八十支里、馬峪口は百三十支里、辛窑は五十支里にあり、右地域の大部分は陸宗興、徐世昌、丁士源、曹汝霖等の所有に係り從て同公司的有力者亦以上の數氏とす、同公司は當初官督商辦なりしも民國七年二月徐緒直の代表當時之を官商合辦に改め資本金額を銀二百萬元とし官商各半の株式組織とし大正七年三月十六日陸宗興其の督辦に任せられ政府より銀二十萬元を支出し採礦

に着手せり。

煙筒山鐵礦は宣化より十五支里の地にあり梁士詒と龍關鐵礦公司との間に於て探掘權獲得に付競争ありしも遂に合併して龍煙鐵公司と命名し官商合辦資本金五百萬元の會社とし内八萬元の拂込を了し大正八年四月十九日改めて陸宗興督辦に丁士源會辦に任命されたり。

礦區は既述の如く龐家堡、馬峪口、辛窑、煙筒山の四箇所にして品位良好礦量多大にして五十パーセント以上のもの龐家堡は二千萬噸馬峪口は一百萬噸辛窑及煙筒山は各一千萬噸合計四千一百萬噸と稱す、然れども右は支那人技師の調査にして日本人の調査とは相異ありと云へば必ずしも信を措き難きも有望なるは事實なるが如し。

而して當初煙筒山より採掘を始めたるが丁士源が京緩鐵路局長たる關係上同鐵道との間に於ける交渉は極めて圓滿に進捗し大正八年初め宣化府より水磨迄同鐵道を延長せしめ水磨より約七支里は輕便鐵道の布設を了し又北京西方約十四哩なる北京門頭溝線の一驛たる三家店に於て製鐵所設置の計畫を建て當初百噸爐二基を据付くることとし、機械類と共に米國に註文せり、然るに之より先、大正七年七八月の交住友、三菱、久原等と礦石の賣買又は投資に付き交渉する所ありしも決せず米國に註文せる鑄爐は未だ到着に至らず既採礦石の處分に窮し止むなく之を漢治萍公司に託して約二萬噸の銑鐵を製造し内四千噸は支那に於て之を使用し残り一萬六千噸内外を日本に賣込交渉し來れり、當時三菱としても開灤礦務局が秦皇島に製鐵所を設置し龍煙公司と買礦又は合同契約をな

むとするの秋なれば之が製品のみならず進んで買鑛契約をなさむとの意志を有せしも本邦關係箇所の意見一致せず且つ價格に於ても三菱龍煙間に妥協を得ず遂に破談となれりと云ふ。

次に龍煙公司計畫の製鐵所に就て一言せんに同敷地は北京の西方約十四哩なる三家店にあり北京より門頭溝鐵道により五十數分にして達するを得べく米國に註文中なりし熔鑛爐（百噸爐二基と云ふ）の到着を待ちて据付に着手すべく目下地均工事中に屬す、而してコークスは石炭を山西省の六河溝磁州西炭礦及井涇炭礦等より仰ぎ之を練製する目的にて嘗て大正八年末三菱にコークス及其副產物工場の設計を依頼し來りしことありと云ふ、尙寺西某の言によれば龍煙公司は大正八年末三菱にコークス及副產物工場の設計を依頼し來りしことありと云ふ、尙寺西某の言によれば龍煙公司は大正八年度に於て約一百四十萬圓の損失を招きたりとのことなれば其財政の窮乏は甚しく從て陸宗興等に於ては我投資を希望し又日本側としても阪西少將其他有識の間には尙引續き之が運動中に屬するが如し。

而して陸は之が回復を計るにあらざれば株主の反対に遇ひ引責の止むなきに至るべく斯くては梁士詰、周白齊等の爲めに開灘と握手するに至るべく日支兩國の爲め不利なれば日本の後援を希望し目下一千萬圓の資金を得ば經營をなし得べしと云ひ居れり、因に同公司は十箇年間の輸出免稅を許可せられ居れりと。

●奏皇島製鐵所の製鐵原價に就て 秦皇島に於て英人ネーサン氏が新設せんとする製鐵所の見積りにては銑鐵一噸の生産費墨銀十一弗乃至十二弗なりと云ふ、又北京の方宜化府の龍關鐵山の鑛石並に六河滯炭を使用し北京附近に

新設せんとする製鐵所の見積りにては銑鐵一噸の生産費を約三十元と算定せり、我國の生産費は昨今五十圓乃至九十圓にして彼我の間に著しき懸隔あり、傳聞する所に依れば秦皇島製鐵所に於て使用せんとする製鐵原料中骸炭は廣く市場に販賣する目的を以て多量に製造し其副產物の利益にて炭價を零にし鐵鑛は楊子江畔に產するものを用ひ開平炭運送の復航に該鑛石を運び其運賃を輕減する豫算なりと云ふが果して違算なきを得るや今該計畫に就て些か考察するに該製鐵所が使用せんとする楊子江畔蕪湖附近に於ける寶興公司の鐵鑛採掘費用は一噸約銀一弗二十仙にして之に諸経費及運賃を加算せば採石磯渡銀二弗二、三十仙なりと云へば復航空船を利用するも採石磯に於ける荷役費秦皇島に於ける陸揚及び運搬費を要するを以て少くも三弗以上となるべし、次に開灘炭の原價を見ると千九百二十年頃當平均二弗五十仙、之に秦皇島迄の運賃及積卸費を加算せば三弗五十仙となるべく、粉炭と雖も洗炭費を要するを以て右平均價格を下らざるべし、然るときは單に石炭及び鐵鑛の原料費のみにても約十三弗を要し之に石灰石其他直接費間接費一切を計算せば勿論二十圓を下らざるべし、尙漢陽製鐵所に於ける現在銑鐵一噸の製造原價約四十圓なりと云ふ。

●開灘炭礦耐火煉瓦製造概況 開平炭田には極めて可塑性に富める粘土到る處に存在し又此の粘土は比較的低溫度にて陶化し得るを以て此の地方は數百年來粗製陶器の製造を以て著名なるものあり。

粘土の品種 當地方の耐火粘土は一般にストーアブツジ産の最優等品に類似す、就中該粘土層の大なるものの一より產

するものは礫土の量頗る多くして四四パーセントに達し、酸化鐵、石炭及びアルカリ土類の含有甚だ少量なるを以て特に注意に値すと謂ふべきなり。

煉瓦の品種 製造する耐火煉瓦は英國のシャモット煉瓦と同種にして冶金術上の需用には硅酸、苦土、クローム礫土との他の配合を加減して適應せしめ製品としては一等、二等、三等の三種ありて其の化學成分應力及び摩損に對する抵抗等の度合に至つては廣き程度に整調しあるを以て、耐火粘土製品を需要する極東の一般諸工業は此三種の内より適當品を任意に選擇し得べし。

此等の耐火煉瓦分析の結果左の如し。

	第一品	第二品	第三品
硅 酸	五四・七〇%	六〇・一〇%	六六・五〇%
礫 土	四〇・〇〇	三四・〇〇	二七・〇〇
苦 土	一・五〇	一・五〇	一・一〇
アルカリ	○・三〇	○・三〇	○・五〇
酸化チタニウム	二・〇〇	二・一〇	二・二五
第二硫化鐵	一・五〇	二・〇〇	二・六五
苦 土	○・三〇	○・三〇	○・五〇
アルカリ	一・五〇	一・五〇	一・一〇
酸化チタニウム	二・〇〇	二・一〇	二・二五
第二硫化鐵	一・五〇	一・五〇	一・一〇
苦 土	○・三〇	○・三〇	○・五〇
アルカリ	一・五〇	一・五〇	一・一〇
酸化チタニウム	二・〇〇	二・一〇	二・二五

(備考)以上の分析表の數字は煅燒により消失及び増減の結果を平均して其の概数を示せり。

### ●山西鑛山投資

山西省方面に於ける石炭、鐵鑛及其他

の鑛産は頗る豊富なりと稱せらるるも現状にては交通極めて不便なると且つ其地域の行政權が中央政府に屬するものあり又督軍の職權に屬するものありて其の關係煩雜なる爲め英米兩國の如きも數年來之れに垂涎しつつ未だ投資するに至らざりき、然るに最近に至り漸く英米の資本家は山西の鑛山に巨手を伸ばし又我國に於ても三井、三菱、高田商會、大倉組等俄かに此の方面に著目し利權の獲得に努力しつつありと云ふ。

### ●鳳凰山鐵鑛の試掘經過

南京秣陵關の鳳凰山鐵鑛は

前に北京政府が實業廳より劉季良等を派遣し探掘に從事せしめたる結果實業廳及び農商部に提出したる報告を見るに全部の鑛量僅に百數十萬噸、目下尙未だ能く開掘に從事せずと雖も歐戰後は鐵價驟に暴落したるに由り僅に其價格支那幣にて一噸四元、而して每噸の運賃二元、開掘及び各種の費用一元を要すれば餘す所僅に一元に過ぎず、尙鑛區は三江營を距る約六十支里、此間鐵道を敷設し以て運轉を便利ならしめざる可からず、此等に要する費用八百餘萬元を下らず、然るに開掘後は一錢の餘す所なし、惟ふに上述の鑛量百數十萬噸は最少限度の計算なるも將來開掘其の宜きを得ば或は二百萬噸以上を採掘すること容易なるべし、加之鐵價漸次上騰して一噸四元以上の高値を示せり故に強ち希望なきに非らざるが、一説に依れば大倉組と共同して經營せんと目下交渉を開始中なりとも云ふ。

### ●湖南省產銻鑛輸出狀況

湖南省の各種鑛業に豊富なるは世人夙に之れを知る特に銻鑛の產出に至りては世界に

誇稱す可き本省の特有產物として其の產出の多寡は直ちに歐米市場に影響するものとして斯界に重視せられ居り歐洲戰勃發以來銻價は一時暴騰を重ねたる結果省内各地銻鑛の採掘量を增加する一方新鑛山の發掘せらるるあり、需要又般賑を極め歐戰酣なる頃に於ては純鑛即ち鍊鑛一噸の價格千弗を突破せしことありて頗る盛況を呈せしが休戦と共に暴落相次ぎ大正八年中には一噸僅に九十弗内外に慘落せしことあり、爲に長沙に於ける銻鑛製鍊所等多く作業を停止するの已むなきに至れり、其後幾分好調に向ひたりと雖も前年の昂騰せし當時の價格に比すべくもあらず目下の處銻鑛一噸の價格百三十弗

内外約鑛七十弗内外なりと云ふ。

產地及產額 大正九年度の總產額は約八萬五千噸にして產地縣別にすれば左の如し。

縣名	鍊鑛	約鑛	粗鑛
新化縣	三、四七〇	一、七八〇	二六、八〇〇
安化縣	一、一〇〇	一	二、七〇〇
益陽縣	八〇〇	一	九、〇〇〇

邵陽縣	一一〇	一	一
茶陵縣	六一〇	一	二、一七〇
遠陵縣	一	一	一

陽間に集散す。

最近五箇年間に於ける輸出數量及價格 最近五箇年間に於ける長沙輸出の鍊鑛(Antimony Regulus)及約鑛(Antimony Crude)の數量及價格を擧ぐれば左の如し。

年	數量		價格
	英	兩	
大正六年	一一二、〇六二	三、一九四、八一六	兩
大正七年	一一四八、八九七	一、四一〇、八七〇	兩
大正八年	一一四、七六一	五五七、六五五	兩
大正九年	一三一、一五八	六六六、六〇一	兩
大正十年至七月末	一一五、八一九	五五八、二五一	兩

は厚生祥及公誠(錢莊)にして別に外商名義にて内實支那人の經營たる太平洋行、平和洋行及泰和洋行なるものあり、外商としては安利英洋行(英商)及開利洋行(獨商)にして邦商側は三井洋行出張所、山本洋行及び廣貫堂等なりとす、是等の諸商は何れも漢口に於ける支店若くは取扱店に仕向け該地より更に東京、大阪、紐育、倫敦、漢堡等に輸出せらる。

荷造方法及運賃諸掛 長沙漢口間は之を木箱に收め此の上を鐵帶にて堅固にす、漢口にては該木箱の上を麻袋にて包裝するか又は一層堅固なる木箱詰とすることあり、經費は一噸に付四弗内外なりとす、一噸は木箱詰十個にして其重量は二千二百四十磅なるを以て一箱の重量は即二百二十四磅なり、今長沙より漢口迄の運賃諸費用を擧ぐれば左の如し。

### 鍊鑛

年	運賃		荷造費用	輸出護照代	荷造費用	稅金	合計
	HK \$	HK HS					
大正六年	三、四五	三、七五	六、二〇	一、六〇	一、八、八〇	一	一
大正七年	三、四五	一、八五	一	一	一	一	一
大正八年	三、四〇	一、九〇	一	一	一	一	一
大正九年	一、九〇	一	一	一	一	一	一
大正十年至七月末	一、九〇	一	一	一	一	一	一

而して漢口より大阪迄の船運賃は噸十二兩とし上海、大阪間は噸十弗なりと云ふ。

年	約鑛	鍊鑛
大正六年	三一九、九九三	一一二八七、九四九
大正七年	一五、八九三	七九、四六五
大正八年	三三、八五四	八三、〇四二
大正九年	八七、三九七	一二七、二三二
大正十年至七月末	一八、一四〇	四二、六二九

當地に於ける取扱店及仕向地 當地に於ける取扱店支那商

## ◎米國に對する日本及支那の鐵鋼註文

附 紐育より歐亞諸國主要港までの運賃率

紐育九月八日發、米國の輸出市場は著しく活氣を呈せり、同時に東洋方面の不景氣は回復して過剩在庫品は消化せられたりと傳へらる。商況新まりつゝありて亞米利加の價格は競争線まで漸次引き下げられ居れり。日本は引續いて薄板を購入し其註文額は各々百噸乃至五百噸を算す、日本は又、鐵力を購入し一獨立輸出業者の報ずる所に依れば、既に鐵力一萬箱を賣渡したりと云ふが尙日本の鐵力現在問合せ額は合計約三萬箱に達すべしと云ふ、目下鐵力の輸出相場はビツツバルク、ベースボックス四弗七十五仙を通例とす、又日本より鐵力一萬五千箱の註文を受けたりと報ずる輸出業者もあり、因に日本の鐵力註文は約三週間以前より始まれり。

合衆國に對する日本の註文は通例鋼及鋼成品にして其他の品は歐洲に註文す。日本は歐洲より棒及軌條を購入しつゝありと傳へらるが一方に於ては合衆國スチール・プロダクト會社は前週日本との間に四千噸の軌條賣渡契約を締結したりと云ふ八幡製鐵所に於ては最近鐵價の値下を行ひ、鋼板及棒は噸百二十圓、角棒及形鋼は百三十圓、溝形及工形鋼は百四十五圓の相場なりと聞く。同製鐵所の値下は在庫品一掃の意味なりしが尙此安値を以てしても買氣を煽ること能はずと云ふ。日本は亞米利加及歐洲の競爭と對抗するを目的として、インゴット、バー及レールも値下したりと報ぜらる。

歐洲よりの報道に依れば國際市場に於ける鋼の註文は獨逸に向けられ尙獨逸は露西亞よりも註文を受けつゝあり、領事

の報ずる所に依れば、ルーマニア政府は機關車二百臺を獨逸に註文せりと云ふ、獨逸及白耳義の製鋼所在庫品は一掃せられ獨逸のワイヤーネールは一樽一志三片方値上せられたりと傳へらる。支那はネールを要しつつありと云へるが亞米利加の製造業者はネール市場に於ては間もなく獨逸と競爭し得るに至るべしと豫想せらる、獨逸の普通ネールは、運賃保險料込値段にて、三仙を以て支那に賣込まれつゝありと云ふ、合衆國に於ては二仙・七五の相場を呼び來りたる故、今後は約二仙・五〇にて輸出することを得ん。

支那は米國より機械類を買込み、あり又ワイヤー屑並に屑鋼等の雜品註文も多量にあり、尙瓦斯管、軸及亞鉛引薄板等の小量を支那に賣渡したる輸出業者もあり、此れ市場擴大の徵候なりとす、同時に支那は日下一大鐵道の敷設を企圖しつゝありて支那のレール現問合せ高は約二萬噸に達し居れるが過去六箇月間に於けるレールの購入額は少くとも三萬五千噸に達すべし。

(The Iron Trade Review. Sept. 8. 1921)

### 海上運賃率

	紐育より	銑鐵鋼片類	鋼棒類	ブレーンワイヤー(ロイル)	鐵力
リヴァープール	八、〇〇	八、〇〇	一〇、〇〇	一〇、〇〇	
倫敦	八、〇〇	八、〇〇	一〇、〇〇	一〇、〇〇	
クリスチアナ	一〇、〇〇	一〇、〇〇	一一、〇〇	一〇、〇〇	
コーケンハーゲン	一〇、〇〇	一〇、〇〇	一一、〇〇	一〇、〇〇	
ハンブルク	九、〇〇	九、〇〇	一一、〇〇	一〇、〇〇	
ブレーメン	九、〇〇	九、〇〇	一一、〇〇	一〇、〇〇	
ローテルダム	八、〇〇	八、〇〇	一〇、〇〇	八、〇〇	
アントウアート	八、〇〇	八、〇〇	一〇、〇〇	九、〇〇	

アーヴィング	八、〇〇
バルセロナ	八、〇〇
リスボン	一〇、〇〇
マルセイユ	九、〇〇
ゼネラルアルヌイ	九、〇〇
コンスタンチノブル	八、〇〇
アレキサン드리ア	九、〇〇
アルジアズ	九、〇〇
ダカール	九、〇〇
ケーブタウン	九、〇〇
△ブエノスアイレス	九、〇〇
△リオデジャネイロ	九、〇〇
△ベルナムブコウ	九、〇〇
ハバナ	九、〇〇
ヴェラ・クルウス	九、〇〇
ヴァルパライソ	九、〇〇
桑シドニア港	九、〇〇
カルカッタ	九、〇〇
備考	九、〇〇
△印は陸揚	九、〇〇
●印は百封度・波止場料増	九、〇〇
●印は百封度	九、〇〇
紐育横濱間の運賃は十二弗なり。	九、〇〇

地メーカーのオツファードは横濱税關渡しバー（丸棒四分から一寸迄）百廿圓見當を下らないのみか積出は益々滞滯を來し三月以後に非ざれば到底不可能と報ぜられてゐるがアルサスローレン、ルクセンブルグ等のものは獨逸物に比し幾分安含みの模様である、次に

白耳義物は獨逸同様の情勢で尙値頃は寧ろ目下は獨逸物を凌駕してゐるのみならず、積出は之れ亦三四月頃にあらざれば不可能を免れず總じて大陸物は著しき遅着を免れざるものゝ如く觀測される、扱て

（略）

米國物を見ると薄板鐵力、釘、鉗金等は兎に角大陸物と比較して相當引合ふ状態であるから註文も米國に向けらるゝ振合であるが、バー及び厚板に至つては依然大陸物との値段の關係上到底不引合を免れざる情況で殊に最近紐育廻しの船賃が二弗方騰貴を報ぜられてゐるから安値は到底見込む可くもない、即ち米國ユー・エス物並時横濱税關渡し百廿八九圓見當であるから引合ふ可くもない、又鋼板も百卅圓見當と同様で今後と雖もバー並に厚板は近き將來に於ては到底註文は不可能なる可き情勢である、如上の事情であるから舊臘來外註は手控へられ勝ちだつた處から昨今海外物殊にバー並に厚板の入荷は頗る稀薄で僅に薄板の輸入を見るのみである、一轉して

（略）

内地市場を見るに外註の激減傾向ある一方大體昨秋の好況時に在荷は著しく消化されたので各品を通じて品薄を來たし一般賣行は茲舊正關係や東北地方一帶の夥しき降雪で此方面の買付は一寸杜絶の姿であり商談は餘り歩々しくないけれども、英國鐵材は依然強硬持續の姿で大陸物は舊臘半以來各本

獨逸物は二月頃より鐵道運賃約五割方の引上げを行ふ模様であるから更に割高を免れざるに至る可く而して各工場共に引續き註文満腹の姿で強て註文を望まざるやの振も見え彼て來てゐるが、

（略）

英國鐵材は依然強硬持續の姿で大陸物は舊臘半以來各本國強調を呈するに至り而も爲替關係は益々輸入に不利となつて來てゐるが、

（略）

ども一般建築界は引續き盛況を呈してゐるので相當大口の商談は弗々ながら繼續されてゐるから舊臘に於て見越された程の春高相場の出現はないが大體一二月と云ふ最も閑散なる季節にも拘らず尙この強調を示してゐると謂ふことは前途昂騰を意味する力強い原因と見られる、即ち最近の市價は海外との如上の事情と前途の大需要を氣構へて上向きの氣勢を示してゐる。

### 丸 棒 (圓單位以下同)

最 近 咨 询期 十二月中旬

昨年同期

四、七〇

四 分 丸

五、一〇

四、五〇

四、七〇

五 分 丸

四、七〇

四、六〇

四、六〇

六 分 丸

四、八〇

四、五〇

四、七〇

七 分 丸

四、八〇

四、六五

四、五〇

八 分 丸

五、一〇

四、八〇

四、五〇

九 分 丸

四、八〇

四、五〇

一寸 二 分 丸

四、八〇

四、五〇

一寸 二 分 角 鐵

五、一〇

四、五〇

● 銑鐵市況 本年度に於ける漢陽製鐵所より八幡製鐵所に納入す可き銑鐵は漢口渡五十二圓見當（該値段は秘密に附し居るを以て正確でない）で二十五萬噸の成約が出來た之を標準とすれば横濱持込値段は六十圓以上に附く計算である又

印度銑鐵は同國內地の需要旺盛なる爲め歐洲へ輸出する能力が減退せる關係に依り其補充として日本より輸入の引合を爲す者があると云ふ状態だから此後印度銑鐵の輸入は不可能であらう、又最近英國よりの入電に依れば横濱持込値段は約七十圓見當を唱へ、一方内地在荷は逐月減少の傾向を辿つて居るので、生産業者は一齊に新規約定に對し二三圓方の値上をした、此等の事情より市況漸次引締り問屋筋は前週頃に比し各品を通じて約二圓方の値上げをした、併し市場唱へ相場としては未だ安値で仕入れたものを有つて居る關係上輪西一號六十二三圓、釜石三號五十八圓見當と大體保合である。

海外に於ける銑鐵市況は依然強調を呈し新規輸入は相變らず高値に附くから今之を輸入して輸入商より問屋に賣るとせば先づクリーブランド銑鐵七十五六圓、米國銑鐵七十三四圓漢陽一號銑鐵七十二圓、タタ銑鐵七十三四圓見當に附き、内地相場より著しく高値であるから到底新規輸入は不可能の状態である而して内地市場も逐月在荷減少の傾向を呈し昨年末現在に於ては二十一萬四千五百噸である、之れを同年十一月末に比すれば約二萬二千六萬噸を減じ又同年一月末に比較すると十八萬五千五百噸の減少を示して居る、又財界不況にて各生産家及問屋等も倒れるものは倒れ整理する者は整理して經濟状態が大に改善せらるゝと共に投物の如き全く其跡を絶つて居るので若し幾分でも需要増加の形勢を見るに於ては直に反撥せんとする氣配であるが、一方鈴木商店が安値時代に契約した印度タタ銑鐵や岸本商會の契約せるベンゴール銑鐵を一般市場相場より幾分安く賣出す爲め伸張力を牽制して居るが以上の理由で先高を見越す向もある。